

城所 ケイジ

Keiji Kidokoro

チェーンソーアート世界チャンピオン (チェーンソーアーティスト)
精進菜食・ベジタリアン
どらごんワンコの会 事務局長

シンクタンク時代に培ったスキルを生かして チェーンソーアートの活動を開始



【田辺市龍神村発】樹木の切断に用いるチェーンソーを駆使して、1本の丸太から作品を彫り上げるチェーンソーアート。城所ケイジさんはその先駆者であり、第一人者である。世界のトップが技を競う国際大会で4年連続チャンピオンを獲得した実績を持つ。今にも動き出しそうな作品の制作に欠かせないのは卓越した技術か、それとも絶対的なデザインセンスか。その問いに対する回答は思いもよらぬものだった。答えの背景には城所さんの波乱万丈な来し方があった。

(創刊編集長・奥田喜久男)

チェーンソーアーティストとして 大成するには情報戦を制すること

奥田 私は仕事柄、いろいろな方にお会いしているほうだと思うんですが、チェーンソーアーティストにお目にかかるのは初めてです。

城所 まあ日本ではあまりない職業ですから。

奥田 チェーンソーアートに出会われたきっかけは？

城所 1997年に林業関連の仕事で、チェーンソーアートの世界チャンピオンであるブライアン・ルース氏と知り合ったことです。最初はイベントを開催したり、米国で開催される大会の視察ツアーを組んだり、企画・運営側としての接点でした。

奥田 それがいつの間にか創作する側に。

城所 そうなんです。面白そうだなと思ってやってみたら、結構できてしまって…。そのうち、ブライアンから誘われて、5年ほどペンシルバニアを中心に東海岸で「カーヴィングショウ」の仕事をしていました。

奥田 どんなショーなんですか。

城所 決められた時間内に、チェーンソーを駆使して、1本の丸太から彫刻を彫り出していく様子をショーとして観ていただく。速攻彫刻ですね。

奥田 円空はなた1本で諸国を行脚していましたが、城所さんはチェーンソー1本でアメリカを回って



PROFILE 1967年、愛知県豊橋市生まれ。高校卒業後、3年間の修業を経て家業を継承。91年、廃業に伴い東京の民間シンクタンクに勤務。94年、愛知県設楽郡にIターン。地域シンクタンクの主任研究員を経て、97年、チェンソーアートの世界的チャンピオンのブライアン・ルース氏との出会いをきっかけにチェンソーアーティストの道へ。2003年、チェンソーアート・ジャパン設立。04年、和歌山県田辺市龍神村に移住。05～08年、チェンソーアート国際大会で4年連続チャンピオン獲得。14年、山中に捨てられたと思われる犬を保護し、里親との縁結びを行う「どらごんワンコの会」を夫妻で設立。

構成／浅井美江
text by Mie Asai

撮影／笠間直
photo by Nao Kasama

2023.2.22 / チェンソーアート・ジャパンにて

いらしたと…。そもそもチェンソーアートには何が
必要なんでしょう。高い技術力か、それとも卓越
したデザインセンスか。

城所 どちらも必要ではありますが、最も重要な
のは情報戦を制することでしょうか。

奥田 ほお! そうきましたか。ちょっと予想してい
なかった答えです。

城所 あくまで私の考えですが、チェンソーア
ートだけで食べていこうと決心したとき、まず考えた
のは業界を知ることでした。それも日本だけでなく
世界的な位置づけはどうなっているのかと。

奥田 市場性を捉えるということでしょうか。

城所 そうです。チェンソーアートは70年代にカ
ナダやアメリカで始まったとされ、欧米やオースト
ラリアでは定期的に大会が開かれるほど盛んです
が、当時の日本ではまったくと言っていいほど無名
でした。つまり市場性としてはゼロ。でも、逆にそ
れが面白いと思いました。

奥田 城所さんのそういう発想はどこから来てい
るんでしょうね。

城所 チェンソーアートを始める前のシンクタン
ク時代に学んだことが大きいと思います。その際、
興味を持ったのはこれから市場を拡大していく戦
略的なマーケティングでした。

奥田 僕はシンクタンク時代の城所さんに興味があ
りますね(笑)。それは後ほどかがうとして、
どんな戦略を取られたんですか。

城所 まずは知名度を上げるために、地元(愛知
県新城市)にあった記者クラブを通じて大手の新
聞にアプローチしました。同時に地方紙にもアピ
ールして、どんどん記事にしてもらいました。その
うち記事を見たNHKや民放のローカル番組が取
材に来るようになって。当時はどんな取材も断ら
ずにすべて受けていましたね。

奥田 見事な広報戦略です。

城所 一方で地元でチェンソーアートの会員組織
をつくって、一気に100人くらいの大きな会を組織
しました。実は愛知万博に合わせて世界的なチェ
ンソーアートの大会開催も視野に入れていたんです。

奥田 それはまた大きな取り組みを…。

城所 予算の問題とかいろいろあって、実現でき
ませんでした。

実家の廃業に伴い上京し 突然のシンクタンク勤め

奥田 そんなふうには戦略を立てることのできるキャ
リアは、どこで積まれたんですか。

城所 そもそも私は親がやっていた理容美容用品
の卸業を継ぐつもりで、高校卒業後は大学には進
まず、鹿児島にある同業の会社に3年間修業に行

ったんです。

奥田 鹿児島とはまた遠くに。

城所 先端に行く取り組みをしていた同業会社が
ありましたので。それで家業を継いだのですが、バ
ブル崩壊の余波などから結局廃業に…。土地も家
もすべて手放すことになって、やむを得ず鹿児島
時代の知り合いを頼って上京したというわけです。

奥田 いつ頃のことですか。

城所 私が24歳の時ですから、91年ですね。その
知り合いは大手シンクタンクの下請けなどをして
いて、それを手伝うことになりました。

奥田 卸業からいきなりシンクタンクの仕事に。

城所 そうなんです。大学も出ていないのに(笑)。
プロジェクトによっては省庁の方々とも仕事をし
たんですが、大学はどこか必ず聞かれるんですよ。
行ってないことを伝えるとすごく驚かれて(笑)。

奥田 そうでしょうねえ(笑)。

城所 実家のことを話すとそれもビックリされて。
まあ自分たちの周りにはない世界ということでは
うね。でも何か親しくしてもらって、その頃の何人
かは今でもおつき合いがあります。

奥田 仕事自体はいかがでしたか。

城所 面白かったです。初めてのことばかりで何
もかも新鮮で。ただ、地方のことがこんなにも東
京で決められているのかと驚き、矛盾を感じたこ
ともありました。行ったことのない町村の行政計画
の立案とか…。

奥田 大きな転機でしたね。そこにはどのくらい
勤められたのですか。

城所 3年弱でしょうか。あつという間の時間でした。
奥田 でも、先ほどの情報戦略の立て方など、城
所さんの知的戦略の基盤はその3年間で得たもの
ですよ。

城所 おっしゃる通りです。世界チャンピオンに
なれたのも、どうやったら勝てるかを徹底的に情
報分析できたからだと思いますね。

奥田 その後はどうされたのですか?

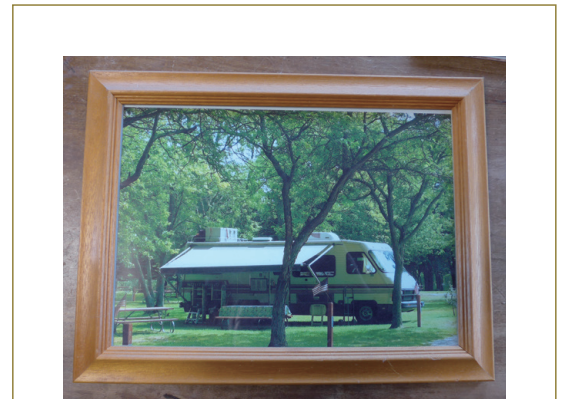
城所 愛知県の山間地域にIターンして、地域の
シンクタンクの主任研究員として、林業の振興に
関わる仕事をしていました。ブライアンに出会っ
たのもその仕事の一環です。

奥田 そこから城所さんの人生にチェンソーア
ートが登場する。また転機が訪れましたね。ところで、
ホームページを拝見すると、さまざまな作品ととも
に参考価格も明記されています。

城所 はい。うちは木の太さと高さで価格を決め
ていますので。ただし、龍に関しては時価なんです。

奥田 時価とは?

城所 ほかの対象物はだいたいデザインできるん
ですが、龍だけは実際に彫ってみないとわからな
いんです。



アメリカ時代の城所家だった モーターホーム

5年間のアメリカ巡業時代、城所さん
夫妻がマイホームとしていた1台。生活
用具一式を詰め込んでペンシルバニアを
中心に、ニューヨーク、ミシガン、オハ
イオなどで開催されるショーに出演して
いた。時折雨漏りに悩まされることもあ
ったという。

奥田 それはもしかして、木の中に龍が見えてく
るとかそういうことですか。

城所 その通りです。本当に不思議なんです、
龍だけは私がデザインするのではなく、実際に木
に見えたラインに沿って彫らせていただく感じなん
です。

奥田 そのことを感じられたのはいつですか。

城所 ここ(龍神村)に越してきて間もなくのこと
です。和歌山市の伊太祁首神社に奉納する龍神様
を彫らせていただくことになり、木に向かい合った
時に中に龍が見えました。

奥田 それは興味深い。後編ではぜひそのあたり
の話も聞かせてください。(つづく)

BCNは「ものづくりの環」を支え
育むメディア企業です



——「ものづくりの環」の詩——

ものを使う人がいます
ものを売る人がいます
ものをつくる人がいます

いつの時代も私たちは生活の心地よさを求めます
その意(おもい)が新しいものを生み出す

使う人、売る人、つくる人——
私たちは「ものづくりの環」のなかで
すべての人の心が豊かになることを願っています

株式会社 BCN

<http://www.bcn.co.jp/>

※この記事は、BCN+Rの「千人回峰(対談連載)」で公開中です。
<https://www.bcnretail.com/hitoarite/>